

「ポラリスⅡ」がやってきた

5日、杉並区立荻窪小学校（宮前2-13-18）に、なよろ市立天文台「きたすばる」から「ポラリス2号（移動式天文台車）」が約1000キロメートル、30時間の長旅をしてやってきました。北海道名寄市と杉並区は、平成元年から交流自治体協定を締結し、さまざまな機会でも交流を続けていて、ポラリス2号の登場も、交流の一環で行われました。

名寄市周辺は豊かな自然条件と盆地に位置する地形的な条件など、国内でもトップクラスの天体観測ができる条件にあります。なよろ市立天文台「きたすばる」（名寄市字日進157-1）は、平成22年に開館され、国内最大級を誇る口径160センチメートルの「ピリカ望遠鏡」が設置され、惑星観測を行っています。



その「きたすばる」が所有する「ポラリス2号」も、口径40センチメートルの大型望遠鏡を備えた移動式天文台車で、屋根を開放できるように改造されています。このポラリス2号は、普段は市内の小中学校を巡回し天体観測や宇宙科学の学習に使用しています。また、道内の近隣自治体などから、イベントなどに依頼を受け出かけることはありますが、北海道から出ることは滅多にありません。北海道を離れたのは、杉並区以外では、杉並区とともに東日本大震災の復興支援を続けている福島県南相馬市のみです。

今回は、6月3日の昼過ぎに名寄市を出発し、苫小牧から仙台までカーフェリーに乗り杉並に到着したのが4日の夕方、およそ30時間で1000キロメートルの長旅となりました。杉並には、平成24年10月に区制80周年まつりの会場に登場以来2度目です。

4日、荻窪小学校にポラリス2号が登場。4年生の110名ほどが、なよろ市天文台職員（技師）の渡辺文健（わたなべふみたけ・32歳）さんから、望遠鏡のしくみや宇宙の不思議について話を聞きました。生憎の曇り空でしたが、子どもたちは目を輝かせていました。

ポラリス2号での観望会は、週末にも予定されていて、天気良ければ金星や木星、土星、さらに織姫や彦星などの一等星が見られます。北すばるの渡辺さんは、「この機会に宇宙に興味を持ってもらい、二等星まではっきり見える名寄市に足を運んでもらいたい」と話していました。

【観望会とプラネタリウム上映】 時間は両日とも①14:30～16:30②19:00～20:30

6日：桃井第三小学校（西荻北2-10-7）

7日：区立中央図書館（荻窪3-40-23）

*観望会は、雨天・曇天で中止となります。